

武雄警察署協議会開催結果の概要

令和7年1月23日

会 議	令和6年 第2回 武雄警察署協議会
開催日時	令和6年12月12日（木） 15：00 ～ 16：41
開催場所	武雄警察署 会議室
出席者	公安委員会：岸川公安委員（1人） 協議会：草場会長、富永副会長、淵委員、田中委員、大島委員（5人） 警察署：大串署長、百武副署長、西山警務課長、杉原会計課長、光野生活安全課長、古川刑事課長、村山地域課長、鶴交通課長、馬場警備課長、警務係長（10人） 計16人
議 事 概 要	
1 開会 2 会長挨拶 先般開催されたSAGA2024国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会においては、佐賀県チームの大健闘もあり、盛況のうちに閉会となった。 また、大きな事件・事故の発生もなく、御来賓としてお見えになった皇族方の身の安全もすべて確保することができたと聞き及んでいる。 これもひとえに武雄警察署をはじめ、佐賀県警察が事件・事故の防止に全力で取り組んでいただいた結果だと思う。 今後とも佐賀県内の安全・安心を維持していただくとともに、住みやすい武雄市の実現に向けて、武雄市民と協働していただくようお願いする。 本日、交通死亡事故の発生現場を視察する予定であるが、これから年末にかけて交通事故の増加が予想される。交通事故抑止には万全の対応を図られていると承知しているが、市民生活の安寧を守るため、なお一層尽力されることを願う。 当協議会も、武雄警察署の一助となるよう、力を尽くしていく。 3 署長挨拶 10月には、SAGA2024国スポ・全障スポ大会が開催され、当署としても所要の警備に従事し事件・事故の防止に努めたところである。また、同時に衆議院の解散に伴う総選挙が行われ、公平な選挙が行われるように選挙違反の取締りを行った。更に、武雄温泉秋まつり・流鏑馬雑踏警備を実施し、観光客等の雑踏事故の防止に力を入れたところである。 立て続けに行われた大きなイベントに的確に対処するため、当署員が一丸となり、すべての事案を無事に完遂することができた。 その様な中、残念ながら当署管内において約2年振りに交通死亡事故が発生した。10月21日、高齢の歩行者が武内町真手野の市道を横断中に交通事故に遭い、死亡するという事故であった。委員の皆様には、協議終了後、現地	

を視察していただく予定としており、交通事故抑止のための参考としていただければと考えている。

また、相変わらず架空料金請求詐欺などのニセ電話詐欺事件の発生が後を絶たず、被害件数・被害額ともに増加している状況にある。

更に、世の中を震撼させている、いわゆる「闇バイト」関連の強盗事件等については、いづどこで発生してもおかしくない、予断を許さない状況にあると言える。

当署管内の治安情勢については、これまでのところ比較的平穏に推移しているが、これから年末にかけて人や車の動きが活発になると考えられ、事件事故の増加が懸念される。警戒員を増強するなど必要な措置を行いながら、まずは事件・事故を発生させないことを主眼に置き、各種施策を展開していく。

本協議会は、委員の皆様の知見と地域から寄せられた「声」をお伺いし、武雄警察署の業務運営に生かしていくことを目的としており、武雄市の治安をより良きものとするために、武雄警察署はどうあるべきかなど忌憚のない御意見、御要望をお聞かせいただきたい。

4 答申

本年度第1回協議会で諮問された「警察官募集の効果的な推進方策」について

- ・ **小学生世代からの積極的な職業教育の推進**

これまで以上に警察官が小学校に訪問する機会を作り、警察官の業務内容の説明や疑似業務体験会などを積極的に行う

小学生世代が将来の職業の選択肢として、警察官を優先的に志すような刷り込み教育的な施策を行う。

- ・ **警察業務の魅力を伝えるための更なる広報活動の推進**

警察業務は大変な部分があるものの、それを凌駕するやりがいや魅力があることを伝え、警察組織は高い理想を持つ人材を募集していることを広報していく

旨を答申を行った。

5 協議

(1) 業務概況の説明

ア 警務課長：採用募集状況、広報実施状況、当番勤務のブロック運用

イ 生安課長：特別法犯検挙状況、ニセ電話詐欺等の被害の現状、犯罪抑止活動事例

ウ 刑事課長：刑法犯の認知・検挙状況、罪種別の主な検挙事例

エ 地域課長：若木駐在所と武内駐在所の統廃合について

オ 交通課長：人身交通事故発生状況、交通指導取締り状況、交通事故抑止対策の推進状況

カ 警備課長：テロ対策の推進状況、災害対策の推進状況

(2) 質疑応答・要望等

委員： 若木駐在所に武内駐在所を統合することだが、これは事件・事故の発生件数だけを見て合併することとしたのか。
人口は、武内町の方がかなり多いと思う。

警察： 事件・事故の件数だけで統廃合を検討しているのではなく、犯罪情勢や地域の状況を勘案して、必要な場所に必要な人員を配置することを目的として統廃合を検討した。

委員： 特に市道で一時停止線が消えかかっている場所が多い。なかなか市では手が回っていないようである。警察としては市にどのような働きかけをしているか。

警察： 警察から市に対し、補修を申し入れている。

警察では、一時的に白線を補修するスプレーで応急措置をしている。市民の皆様にも、停止線が消えかかっている場所については随時教えていただきたい。

委員： 武雄富岡郵便局北側の信号機が無い交差点は見通しが悪く、交通事故が多発しているので、この交差点にカーブミラーを設置できないかと前回の協議会でも話したが、その進捗状況を教えていただきたい。

警察： 市を通じて、地権者に働きかけをしてもらっているが、大きな進展はない。市に対しては、地権者との話し合いを行う際には、警察も同席しても構わないと申し入れをしている。

委員： 先程話した交差点は、以前、点滅式の信号が付いていたように思えるが、現在は信号機がない。これはどのような経緯で取り外されたのか。

警察： 道路標識で規制した方が運転者に見やすく、一灯式の信号機よりも交通事故抑止効果が高いとの分析結果を踏まえ、平成27～28年頃から全国的に道路標識に切り替えるようになった。その方針を踏まえ、周辺住民の理解を得て変更したものと思われる。

委員： 駐在所の統廃合は、今後も年次的に行われていくのか。次は、西川登駐在所と東川登駐在所が合併するとも噂されていて、住んでいる私達にとっては若干不安な部分がある。

警察： 駐在所の統廃合は、今後、順次犯罪情勢や地域の状況を見ながら行われていくことになる。

今後、警察官の人員増は見込めず、各警察署において業務の見直しを進めていくことになるが、説明ができる時期がくれば、地域の皆様に説明をしていく。

警察： 今後の駐在所の運用について、これまでのように駐在所に住み込むのではなく通勤制にするとか、例えば三か所の駐在所を2人の警察官で対応するなどのブロック運用などが検討されているが、様々な情勢を分析した上で、市民の皆様の安全・安心を確保できるようにしていく。

委員： 長年住んでいれば、地域にもいろいろな問題が生じるが、最近私の地元では、暴力団員と噂されている住民から区費を徴収できないという話が出ている。現在、武雄市内には暴力団関係の組織は何か所あるのか。

警察： 暴力追放運動推進センターが公表している資料では、武雄市内では1団体が把握されている。

委員： 職場の人から、「近所に泥棒が入り、警察官が自宅に聞き込みに来たが、その時家に一人でいたため、突然の警察官の訪問に驚き、警察手帳も見せてもらったが、本当に警察官か不安になったため、警察署に電話して確認した。」という話を聞いた。

必要な捜査を行っていることは十分に理解するが、例えば聞き込み前に地区の世話役さんなどに事前に連絡して、住民に話を通してもらうようなことはできないか。

警察： 時間的な余裕があれば、事前にアポイントを取れるが、事件は緊急な場合も多く、早急に重要な情報を得るための聞き込み捜査は直ちに実施したい。

もちろん、訪れた警察官に警察手帳の呈示を求められてよいし、それでも不安なら聞き込みに来ている警察官の前で、警察署に連絡して確認をされても構わない。

委員： 聞き込みをする場合には、基本警察官は一人で来るのか。

警察： これは、状況によって異なり、一人の場合もあれば、複数の場合もあり、制服のときもあれば私服のときもある。

警察： 聞き込みなど市民の皆さんと接して話を聞く警察官には、私服ならまず警察手帳を示し、自己紹介をして、今日は何のために来たのかを説明するよう指導している。

委員： 署長は、ここ数年、毎年変わっていらっしゃるが、最低2～3年はいてもらいたい。やはり、地域と馴れ合いの関係にならないためにそうされているのか。

警察： これは何とも言えないが、概ね2年で異動している。

6 公安委員講評

活発な質問、意見交換を聞かせていただいた。武雄警察署の日頃の活動状況についても知ることができたし、委員の皆様のお話から、地域の現実から来る要望、不安をひしひしと感ずることができた。

委員の皆様からお伝えいただいたことについては、警察は行政など連携して、改善できる点は早急に対応していただきたい。

また、答申では小学生世代からの積極的な職業教育の推進について提言をいただいたが、特に佐賀県西部地区の子どもの数が少なくなっているなかで、もっと心に浸透するような職業教育を推進するため、マニャーなどマスコットキャラクターも使い、引きつけられるような講話の実施をお願いしたい。

本当にいろいろな御意見や御質問を活発に出していただいたが、これは地域の生活に密着した不安から来たものであると思われる。

凶悪な犯罪等が発生するこの御時世、都会も田舎も関係なく、市民は警察が頼りである。

警察は、一つずつ市民の不安を無くすような活動をお願いしたい。

7 その他

次回開催は令和7年2月中を予定

8 閉会

9 視察

協議会閉会后、令和6年10月21日、武雄市武内町内において発生した交通事故事故現場を視察